＜汚い仕事＞ 横田基地の害虫防除

Dirty Jobs - Yokota's pest control

January 25, 2016

Original text by Airman 1st Class Delano Scott
374th Airlift Wing Public Affairs

第374施設中隊の空兵によって行われている、普段あまり人の目に触れることのない“汚い仕事”に目を向け、その陰の懸命な働きを取り上げるシリーズ、第1弾。

有害生物防除部門の空兵が担う役割は広範囲だ。病原媒介物を調査することから基地全域の害虫や野生生物の防除作業に至るまで、その担当の空兵たちは予防と即時対応双方の体制を取り、施設に害虫を入り込ませないように努めている。

チャイルド・ディベロプメント・センターの床下に通じるハシゴから顔のぞかすブランドン・セナルーサ軍曹

同部門の予防管理プログラムには、横田コミュニティーセンター、下士官クラブ、将校クラブなどの基地内で食品を扱う24ヶ所の施設のモニタリング調査も含まれている。

「食品を扱う施設に、害虫が入り込まない良好な環境を確保することに努めている。また人体への健康被害や外的な危険を回避するために、問題の可能性を持つ施設の除菌作業を行い、公衆衛生を保つ役目を担っている」と第374施設中隊の害虫防除管理担当官ブランドン・セナルーサ軍曹は彼の仕事内容を語った。

有害生物防除部門の空兵は、直面するさまざまな害虫を対処する時、殺虫剤や罠など、あらゆる根絶・除去方法を用いるが、それぞれの施設で害虫の発生につながる根拠を特定し、不具合がある箇所を修理することが最も害虫の侵入に歯止めをかける効果があると考える。

「壁の欠けや割れ目を封じ、ドア枠に隙間のないようにし、虫が建物を出入りできる隙間を塞ぐことによって、害虫が建物に侵入する前にそれを回避できる」とセナルーサ軍曹は言う。

また、すべての施設で有効な衛生手順を励行することは、害虫を防ぐために実施しているもうひとつの重要な手段だ。

「基地内施設の監査を通じ、不適切な衛生習慣によって問題となりそうな施設があればマネージャーもしくは個人に改善策の提案をし、問題の解決に当たる。害虫は生きるために食べ物、暖かさ、水を必要とする。害虫が求めて侵入してくる元となるものをなくしたら、害虫の侵入を減らし、抑制できる」と同中隊の害虫管理担当官ジョエル・メンドザ軍曹は語る。

暗闇の床下を調べるセナルーサ軍曹　害虫を呼び込む原因となりうる設備の破損等を調べ、必要に応じて修理も行う

害虫を封止することにおいて、基地内全ての人の心掛けが肝要だ。清潔に保たれた室内環境を維持し、また窓や床に隙間がないことを確認することで、招かざる害虫を回避することができる。さらに、彼らの担当はそれに留まらず、航空機への鳥衝突回避のための「バードストライク・ハザード・プログラム」を支援する任務も負っている。

「基地内へ飛来してくる鳥を回避する重要な役目も担っている。鳥の飛来によって、飛行乗務員や航空機の安全を脅かす危険がある。安全部と連携し、その危険が最小限に回避されるように努めている」とセナルーサ軍曹は述べた。

第374施設中隊の有害生物防除の担当者はそのほか、イタチ、のら猫、のら犬などに対し、罠を仕掛けたりその場所から立ち去るよ

う追いやるなどして飛行場区域に野生動物が侵入しないように監視を続けている。

「害虫の根絶を語るうえで、横田には横田特有の試練がある。それこそが私にとってこの仕事のやりがいだ。どこの基地も、害虫そのもの、気候、防除方法はそれぞれ異なり、この専門分野において常に新しい知識を得ることができる」とセナルーサ軍曹は語った。

防護服を身に着け、作業にあたる害虫防除管理担当